



平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	計画活動の改質を契機とした「新しい関係づくり」の構築に向けたモデル事業
対象地域	秋田県大潟村集落地
活動概要	<p>八郎潟干拓により湖底から生まれ変わった大地(17,203ha)につくられたわが村大潟は、1964年(昭和39年)10月1日に秋田県で69番目の自治体として名乗りをあげた。6世帯14人の人口でのスタートであった。その後、20年に及ぶ歳月で総事業費約852億円の巨費を投じた世紀の大事業は1977年(昭和52年)に完成した。</p> <p>1都1道36県から589名の入植者が家族と共に入植し、今日、人口は3293人(H19.3月末)に達している。人口規模に大きな変化はないものの農業に従事する主力従事者も第二世代に変化しつつある中で高齢化も進み(高齢化率H17/20.7%)人口構造に変化をもたらしている。かかる状況の中で、2007年(平成19年)、村は村内の多様な主体の参画者等から構成した20数名からなる「西5丁目地区有効活用計画策定委員会」を組織し、その空間(約16ha)の有効活用についてワークショップ方式により審議し、原案の策定を行い計画の実現に向けた第一歩を歩み始めたところである。今後その計画内容についてより多様な主体を巻き込みながら深化を図ることが課題となっている。また、このような仕組みによる地域住民への投げかけは初めての試みであり、この帰趨が今後のむらづくりやコミュニティーづくりにも影響することが予測されることもあり、如何に具現化への歩を進めるかが問われている。</p> <p>そこで、本モデル事業の導入を図り、下記に示す3つの活動により、行政と住民、住民相互、世代間相互の「新しい関係づくり」のあり方を実践活動を通じて体現しながら、やや脆弱化しつつあるコミュニティーの再生に向けた戦略の確立を図ることを目的とする。</p>
今年度の主な取組	<p>上記した西5丁目地区(約16ha)は大潟村のむらづくり拠点、玄関口と位置づけると共に、そこでの活動、交流を契機として村内を散歩、回遊してもらえネットワークを形成すると共に、村内各種グループ相互が連携・融合した多参画な出会いの場とし、新しい発見、価値創造の機会、場として期待されている。その様な期待を具現化するために以下の活動を実践する。</p> <p>①「結(ゆい)」の精神(こころ)結集事業 計画や事業の推進に際して民と官の関係づくりを超えて「結」の意義・精神の醸成を図る必要がある。そこで、現在、計画用地である西5丁目地区が芦や草、雑木等で荒地状態にあることを利用し人、組織、行政等のもっている各種資源をもちより村民総参加による「整地」活動を計画する。そして、この実施日を大潟村「地域づくりの日」としての制定などに結びつけていくことを考える。</p> <p>②「新しい関係づくり」実践事業 昨年度事業成果において西5丁目地区は4つのゾーンに分けて土地利用案が示されている。このうち「癒しと環境学習ゾーン」(5.3ha)、「フリープランニングゾーン」(青年層住民が自己責任の基で自由に計画し、実践できる空間) (4.2ha)、は「協働」作業が出来るか否かがその成否を決める。そのために、2つのテーマを具体化に向けた多様な主体の参画による「新しい関係づくり」実践事業と位置づけ、プロジェクトチームを組織化し、構想の具体化と一部内容の社会実験を試み、実践することを計画する。</p> <p>③「村民報告会」開催事業 新しい事業手法に取り組んだ昨年度事業の成果、本事業の取り組み方法、実践結果について村民に報告する。さらに、次年度に向け住民の総意を結集する体制をつくることを意図する。</p>

活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体の協働活動は、議論の中で生まれたアイデアや提案を基に実践活動を積み重ねるといふ“アクションアプローチ”をもった主体による計画・事業化活動の意味・意義の理解促進や計画内容のイメージの具体化・深化に役立った。 ・これまでの地域づくりが「モノとカネ」から徐々に「コトとヒト」にそのウエイトを高めつつある思潮の“実感”を得た。 ・“もの”を作ったという結果よりも、それを「つくる、協働する」という経過、プロセス、その仕掛け作りの重要性の一端を認識するとともに、実感できる経験・体験となった。 ・以上の諸活動を通して、大潟村がこれまでの行政主導型のむらづくりから村民と連携した協働のむらづくりを進めるとする意志表示に対する理解が進んだ。
当初予想していなかった効果	<ul style="list-style-type: none"> ・村民報告会に大潟村の貴重な資源である秋田県立大学の学生が参加し、意見を表明してくれた。 ・計画地を一望できる空間を見て、有効活用推進委員会メンバーと連携を持つ「馬場目川上流部にブナを植える会」からブナの苗木の寄贈があり、これを計画地の一部に植樹した。 ・村内に居住する県立大学の研究者から、村創生前の汽水湖であった八郎潟に植生していた藻をビオトープに塩分濃度の高い地下水を汲み上げることで再生できないかとの提案をいただいた。 ・大潟村の歴史を表現したモニュメントの建立の提案を契機として、「支援する会」の設立、さらにはこの会が主体的に働きかけている建立募金活動の展開など進められている。
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真:左】重機等による整地作業状況(西五丁目地区) 【写真:右】村民対象の「西五丁目有効活用報告会」実施状況</p>
応募団体名	大潟村、西五丁目地区有効活用計画策定委員会
リンク	-
部局/担当者名	大潟村役場 総務企画課 企画財政班 増永 洋
連絡先	TEL:0185-45-2111 E-mailアドレス: g-masunaga@ogata.or.jp
推薦市町村名	-